

国 語

(小学校第 5 学年)

注 意	
1	「はじめ」の合図があるまで、中の問題を見てはいけません。
2	下のらんに、組、出席番号、名前を書きましょう。
3	「はじめ」の合図があったら、別に配られている解答用紙 ^{かい} に、組、出席番号、名前を書き、「A問題（基本 ^き ）」からはじめましょう。
4	問題用紙は、全部で 1 5 ページあります。 「A問題（基本）」は、1 0 ページで、問題は 五 まであります。 「B問題（活用）」は、5 ページで、問題は 二 まであります。
5	問題に取り組む時間のめやすは、「A問題」が 2 5 分、「B問題」が 1 5 分です。 時間に気をつけて解 ^と きましょう。 早く終わったら、先に進んで解いても、もとにもどって解いてもかまいません。
6	答えは、解答用紙の決められた場所に、はっきりと書きましょう。
7	印刷がはっきりしなくて読めないときは、だまって手をあげましょう。 問題の内容 ^{ないよう} などのしつ問には答えられません。

	問題番号	時 間
A問題（基本）	一 二 三 四 五	2 5 分
B問題（活用）	一 二	1 5 分
合 計		4 0 分

5 年	組	番	名前
-----	---	---	----

A 問題

(二十五分)

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

お客が十人もいれば、いつぱいになってしまいそうな、こじんまりしたホテル。そのとりにあるボートハウスに大介だいすけさんは若い管理人として働いていた。五月になり、町の木々は芽めを出し始めたが、山はまだ冬のままだ。そんな朝に、大介さんは一人の男の子と出会った。

自分一人だとばかり思っていた大介さんは、ぎくつとして、顔を上げました。

目の前に、男の子が一人、立っていました。寒そうに、歯をガチガチ鳴らしています。くちびるまで真っ青です。それもそのはず。男の子は、真夏の服そうをしているのですから。

黄緑色のうすい半そでのシャツに、こけ色の半ズボン。手も足も、丸出しなのでした。大介さんはあきれて言いました。「そんなかつこうじゃあ、寒いのはあたりまえだよ。さ、これを着て。」

大介さんはセーターをぬいで、男の子にかしました。

①

男の子は手も足も冷え切って、まるで、

「早く、家に行こう。」
ボートハウスに帰ると、大介さんは、急いで毛布もうふを出して、男の子をくるみました。毛糸のマフラーも、首にぐるぐるまきつけました。ストーブのまきに、早く火がつくように、すぎの葉のたきつけも、いつもよりたくさん使いました。それでも男の子はふるえています。

「待っておいで。今、※ おじやを作つてあげるから。」

大介さんは言いました。

「朝のバスで来た子だな。それにしても、※ ふもとの町は、よほどあたたかなんだな。」

男の子を横目で見ながら、大介さんは、そう思いました。

やがて、おじやに散らかした※ ふきのとうのにおいが、ボートハウスに流れました。それは、なつかしいにおいでした。

子どものころ、大介さんは、毎年、春になるのが待ちきれませんでした。外にとび出すと、しめった土のにおいがうれしくて、うれしくて、夕方おそくまで遊んでいたものです。

手も足も冷え切つて帰ると、大介さんのお母さんは、いつも、こうしておじやを作つてくれました。

おじやを食べ終わると、男の子の体のふるえも、やっとおさまりました。

「ありがとう。あたたかくなりました。」

男の子はそう言って、はずかしそうに笑ってみせました。

「それにしても、君はうす着すぎるよ。ふもとの町とここでは、ずいぶんあたたかさがちがうのだから。」

男の子は、少し赤くなって、うなずきました。

「ええ、父さんも言いました。まだ、早いよって。でも、ぼく、春の初めけしきの景色が大好きなんだ。だから……。」

男の子の年ごろを思い出して、^②大介さんは、思わずにやりとしました。

「今朝は、また、急に冷えたからねえ。君の父さんは、この土地の人なの？」

「ええ、もう長くすんでいるんです。」

男の子は得意そうに言いました。

(やなぎやけいこ 「もうすぐ春です」による)

※ おじや …… ご飯をにて、やわらかくし、味付けをしたもの。ぞうすい。

※ ふもと …… 山の下の方。山からおりたところ。

※ ふきのとう …… フキ(植物)の芽生えたばかりのくき。

問一 文章中の ① に入る言葉として、最もよく当てはまるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えましょう。

ア セーターのようにやわらかいのです

イ 毛布のようにあたたかいです

ウ 氷のようにつめたいのです

エ わたのようにかるいのです

問二 文章中の——線^②「大介さんは、思わずにやりとしました。」とありますが、なぜ思わずにやりとしたのでしょうか。最もよく当てはまるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えましょう。

ア 男の子が、少し赤くなって、うなずいている様子をかわいく思えたから。

イ 男の子が、子どものころの自分と同じように思えたから。

ウ 男の子が、おじやをあまりにもおいしそうに食べてくれたから。

エ 男の子のお父さんが、この土地の人と分かり、安心したから。

二 次の文章を読んで、下の問いに答えましょう。

もう一度、ムササビの様子をくわしく観察してみましょう。ムササビには、とても長い尾^おがあります。木から木へと飛びうつるときには、この長い尾をうまく使っています。尾を船の後ろについているかじのようにうまく使って、飛びうつりたい方向へ行くことができるのです。

ところで、ムササビはどうして木の上でくらしているのでしょうか。

ムササビは、地上でえさをとることはまずありません。木の実や果実を食べて生きています。地上には、ムササビをおそう動物がいるので、下りるのはきけんなのです。だから、木から木へと自由に飛びうつり、木の上でえさをとる生き方をするようになったのです。

昔は、山に続く神社の森などにふつうに見られたムササビですが、いつの間にか、^①めずらしい動物になってしまいました。それは、人間の生活する場所が広がったために、森や木がへり、ムササビがすむ場所がへってしまったからです。

自然の中で動物が安全にくらしていくためには、えさをとる場所の他に、かくれる場所と休そくする場所、それに[※]はんしょくする場所が必要です。木から木へと飛びうつって生活するムササビにとって、^②これらの場所は全て、木の上です。だから、ムササビには、「ゆたかな森の木々^{きぎ}」は、どうしても必要なのです。

わたしたちの生活も大事ですが、森の生き物たちのくらしも大切です。だから、自然の中にいる動物たちも自由に動き回り、くらしていけるように、みんなで考えたいものです。

（「ムササビのひみつ」による 一部表記を^{あらた}改めたところがある）

※ はんしょく・・・子どもがどんどん生まれてふえること

問一 文章中の——線①「めずらしい動物になってしまいました。」

とありますが、それはなぜでしょう。その理由を文章中からさがして書きましょう。

問二 文章中の——線②「これら」

とは、どこをさしていますか。文章中からさがし、すべて書きぬきましょう。



【写真】飛んでいるムササビ

問題三は、次のページからはじまります。

【三】 次の文章は、めぐみさんが昔の遊びを教えてくれた田中さんに書いた、お礼と発表会の【案内の手紙の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【案内の手紙の下書き】

こんにちは、お元気ですか。

この間は、昔の遊びについて教えてくださりありがとうございました。^①わたしは、田中さんに竹馬の乗り方を教えてもらってから、家でも毎日練習するようになったので、だれよりも上手に竹馬に乗ることができるようになりました。今では、なかなか竹馬に乗ることができない友達に、乗り方を教えることができました。

今度、ひむか小学校で「昔の遊び発表会」があり、発表に向けて練習をがんばっています。発表会は、十一月二十二日（金）の午前十時から正午までです。会場は、ひむか小学校の体育館です。クラスごとにテーマを決めて発表します。わたしは二組で、「昔と今の遊びのちがい」を発表します。また、教えてもらった遊びをいっしょに体験するコーナーもあります。^②練習でがんばっていることは、

分かりやすく発表することをがんばっています。来てもらった方に喜んでもらえるように準備を進めているので、田中さん、ぜひ見に来てください。

それでは、お会いできることを楽しみにしています。お元気で。

③

⑤

④

問一 めぐみさんは、文章中の——線①の文章が長いので、二つの文に分けたいと思いました。に文と文をつなぐ言葉を入れて、二つの文になおしましょう。

わたしは、田中さんに竹馬の乗り方を教えてもらってから、家でも毎日練習するようになりました。、だれよりも上手に竹馬に乗ることができるようになりました。

問二 めぐみさんは【案内の手紙の下書き】を読み返して、文章中の——線②の文がおかしいことに気づきました。に入れて、正しく書きなおしましょう。

練習でがんばっていることは、

問三 手紙の③、④、⑤には、「後づけ」が入ります。書く内容の組み合わせとして、

- | | | | | | | | | |
|---|---|---|-------|---|-------|---|-------|---|
| ア | (| ③ | 相手の名前 | ④ | 日づけ | ⑤ | 自分の名前 |) |
| イ | (| ③ | 日づけ | ④ | 自分の名前 | ⑤ | 相手の名前 |) |
| ウ | (| ③ | 自分の名前 | ④ | 相手の名前 | ⑤ | 日づけ |) |

【四】 山川さんのクラスでは、「学年で遊ぼう集会で何をするか」について話し合うことになりました。次の【学級での話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【学級での話し合いの様子】

今村 (司会)	今日は、「学年で遊ぼう集会で何をするか」について、遊び係からのてい案をもとに話し合います。他の人の意見をよく聞いて、進んで発言してください。それでは、まず遊び係の山川さんからてい案をおねがいします。
山川	はい。遊び係としては、みんなができる遊びとして、「全員リレー」か「大なわとび」がいいのではないかと思います。
今村	それではまず、全員リレーについての意見をお願いします。
池田	わたしは、全員リレーに賛成 ^{さんせい} します。全員リレーは、だれでも参加できるし、いろいろな準備 ^{じゅんび} をする必要がないので、かん単にできるからです。
小林	ぼくも、全員リレーに賛成です。リレーは運動会の種目でも取り上げられています。それに、全員で走ること、みんなの思い出に残るからです。
今村	それでは、次に、大なわとびについての意見をお願いします。
大野	ぼくは、大なわとびに賛成です。大なわとびは、今みんなが体育でがんばっているからです。それに、みんなが好きな遊びで、だれでも参加できるからです。
原	わたしも、大なわとびがいいと思います。大なわとびは、たくさんとんで記録が出れば、みんなの思い出に残ると思います。ぜったい大なわとびがいいです。
今村	ここで一度整理します。これまでに出了意見には同じところがあります。まず一つは、池田さん、大野さんから出された「だれでも参加できること」です。もう一つは、小林さんと原さんから出された「 ① 」です。
西	池田さんに、しつ問します。 ② 当日、クラスごとに人数がちがったらどうするんですか。

池田

はい。一番人数が多いクラスに合わせて、少ないクラスは、二回走る人を決めればいいと思います。
(話し合いが続く・・・)

問一

①

には、小林さんと原さんから出された同じ内容が入ります。

①

に入る内容を、二人の意見から

さがして書きましょう。

問二

司会である今村さんの話し合いの進め方のよいところとして、最もよく当てはまるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えましょう。

ア 自分の立場をはっきりさせ、考えを言いながら進めている。

イ 運動が苦手な人のことを、一番大切にしながら進めている。

ウ 決められた時間内に終わるように、時間を決めて進めている。

エ それぞれの意見を整理し、共通点を見つけて進めている。

問三

文章中の——線②のしつ問は、どのようなねらいがあると考えられるでしょう。その説明として最もよく当てはまるものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えましょう。

ア 相手の意見の中でのべられておらず、分からないことを、くわしく聞き出そうとしている。

イ 相手の意見に対する自分の意見が理解^{りかい}されているかどうかを、かくにんしようとしている。

ウ 相手の意見と自分の意見の同じところはどこかを、たしかめようとしている。

エ 相手の意見の中に理由がのべられていないことを、明らかにしようとしている。

五 次のそれぞれの問いに答えましょう。

問一 次の(1)～(5)の――線部のひらがなは漢字に、漢字はひらがなになおしましょう。ただし、漢字になおすとき、送りがあるものについては、送りがなも書きましょう。

- (1) 習字のせいしよをする。
- (2) 大事なことをてちように書く。
- (3) 荷物をはこぶ。
- (4) 友達を説得する。
- (5) 台風のえいきようで停電する。

問二 次の――線部の言葉をローマ字になおして書きましょう。

お湯を ポット に入れる。

問三 次の漢字の黒くぬった部分は、何画目に書きますか。それぞれ数字で答えましょう。



問四 次の慣用句の使い方として、正しいものをあとのア～ウから一つ選び、記号で答えましょう。

【馬が合う】の使い方

ア かおりさんとは、明日の工場見学で別の場所に行くので、馬が合う仲だ。

イ さとしさん とは、よく意見が合うことがあり、馬が合う仲だ。

ウ ゆみさんとは、洋服をいっしょに買いに行くこともなく、馬が合う仲だ

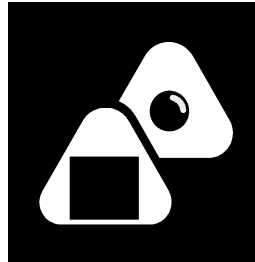
問五 次の文の――線ア～キの中から、主語と述語をそれぞれ選び、記号で答えましょう。

大きなプールで、	青木さんは、	友達と	いっしょに	楽しく	泳いだ。
ア	イ	ウ	エ	オ	カ
					キ

おにぎり

材料（一人分）

米	…	120 グラム
こんぶ	…	好みの量
焼きのり	…	1 枚
塩	…	少々



準備

- ご飯をたいておく。
- のりをおにぎりの大きさに合わせて切っておく。

作り方

※

- 1 茶わんに軽くご飯を入れ、具（こんぶ）を真ん中に入れ、ご飯をかぶせて大体の形を作る。
- 2 手のひらに水をつけ、茶わんからご飯を、かた方の手のひらにとる。
- 3 もう一方の手で三角の角をつくりながら、ご飯をにぎる。
- 4 三角形の形を整えながら転がし、力を入れてにぎる。
- 5 塩を全体に少しずつふりかけて、さらににぎる。
- 6 焼きのりをまいたらでき上がり。

※ 具・・・おかずのこと

ポイント

- これらの材料は、人数に合わせて用意しておきます。
- おにぎりの具は、味のこいものが向いています。
- 具の量を多くすると、にぎりにくく、くずれやすくなるので、具は少なめにします。

山下さんと中川さんは、おべんとうに入れるために、【おにぎりのページ】を読んで、家でおにぎりを作りました、次の【おにぎりのページ】と【おにぎりを作ったあとの感想】を読んで、あとの問いに答えましょう。

B 問題

（十五分）

【おにぎりを作ったあとの感想】

山下さん



おにぎりをにぎっているうちに、三角形にならずに、変な形のおにぎりになってしまったな。どこに気をつけたらよいのかな。

中川さん



こんぶが大好きなので、具（こんぶ）をたくさん入れすぎてしまった。今度は、おにぎりから具がはみ出てくずれないようにしたいな。

問一

二人の感想を聞いた白石さんと竹田さんは、二人がうまく作るために、【おにぎりのページ】のどこをどのように読みなおしたらよいのか、アドバイスをしようと考えました。そして、白石さんは山下さんに、竹田さんは中川さんにアドバイスをすることにしました。竹田さんは、中川さんにどのようにアドバイスをしたらよいでしょう。白石さんと同じ言い方になるように、①、②に入る言葉を書きましょう。

白石さん（山下さんへのアドバイス）

作り方

のところで

にぎり方について書いてある内容に気をつけて読みなおすといよい。

竹田さん（中川さんへのアドバイス）

①

のところで

②

【二】 青木さんの学級では、社会科の学習で、職業しよくぎょうごとにいくつかのグループに分かれて、地いきで働く人にインタビューをすることになりました。次は、青木さんのグループが、「魚市場うおいちば」で働く人へのしつ問の内容を話し合っている様子です。これを読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

青木
(司会)

ここで一度、出されたしつ問を順番じゅんばんにたしかめてみます。

- 1 魚市場で働く人の仕事は、どのようなものがあるのか。
- 2 魚市場で働く人は、何時から何時まで働くのか。
- 3 魚市場では、一日どれくらいの量の魚が売れるのか。
- 4 魚市場で働く人は、土曜日と日曜日にも働くのか。
- 5 魚市場で働く人は、全員で何人いるのか。

これらの五つのしつ問の中には、まとめられそうなしつ問があります。

「仕事の種類や人数に関するしつ問」としては、

ア

が当てはまります。また、「働く人の時間や曜日に

関するしつ問」としては、

イ

が当てはまります。これらのしつ問はまとめられそうなので、あとで整理す

ることにします。

全員

はい。

青木

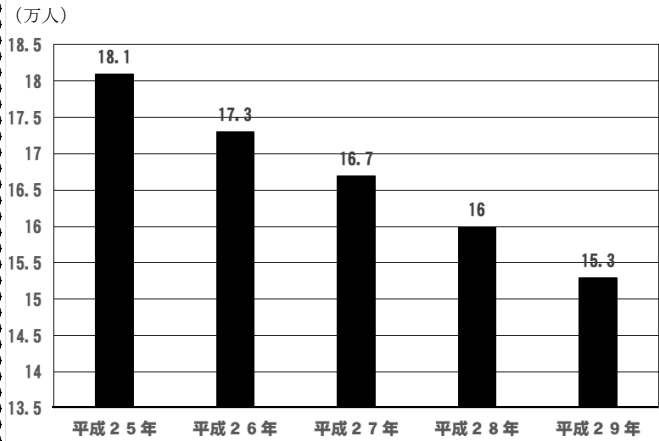
それでは、別のしつ問をしたい人は、続けて発表してください。

しつ問が出しつくされたところで、先生からのアドバイスが入る

【先生がみんなに見せたグラフ】

漁業を仕事としている人の数

※ 漁業とは、魚や貝などをとったり、育てたりする仕事です。



農林水産省
漁業労働力に関するとう計（平成30年）



先生

このグラフを見てください。これは、漁業を仕事としている人の数をしめしたグラフです。しつ問を考える際の参考にしてください。

先生、ありがとうございます。このグラフをもとにすると、他にどのようなしつ問ができそうですか。

【あなたの発表】

A

他に考えられるしつ問はありませんか。

（発表が続く）

問一 司会者の青木さんは、それまでに出了れた五つのしつ問のうち、まとめられそうなしつ問を、二つのまとまりにまとめています。

【話し合いの様子】の [] の中の1～5までのしつ問を [] ア [] 、 [] イ [] に最もよく当てはまるように分け、番号を書きましょう。

問二 司会者の青木さんは、グループの人たちに、【先生がみんなに見せたグラフ】をもとに、魚市場の人に対する他のしつ問を出してもらおうとしています。あなたなら、 [] A [] のところで、どのようなしつ問を考えて発表しますか。次の【条件^{じょうけん}】に合わせて書きましょう。

【条件】

- 漁業を仕事とする人の数の変化について書くこと。また、そこから考えられるしつ問を書くこと。
- 話し合い中で、実さいに発表するように書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。